



清田 淳子

立命館大学文学部
言語コミュニケーション学域教授

立命館大学文学部教授。お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程修了。人文学博士。専門は年少者日本語教育、国語教育。主な著書に『母語を活用した内容重視の教科学習支援方法の構築に向けて』（ひつじ書房、2007年）、『外国から来た子どもの学びを支える』（編著、文理閣、2016年）、『言語少数派の子どもに対する母語を活用した遠隔型教科学習支援の試み—スカイプを利用して—』（『日本語教育』174号、2019年）など。

シンポジウム コーディネーター



榎井 縁

大阪大学大学院人間科学研究科
特任教授(教育社会学)

横浜生まれ。フィリピン民衆運動、ネパールのチベット難民教育支援、日本の識字活動に関わる。中学校教員、大阪市教育委員会相談員、とよなか国際交流協会を経て現職。外国につながる子どもたちへの教育実践の研究をしている。

このチャリティコンポジウムについて…

日系人やインドシナ難民の家族など、さまざまなバックグラウンドをもった外国人が家族をともなって渡日するケースが増える中、日本の教育制度の中で学校教育を受けようとする子どもたちは毎年増加し続けています。



外国人生徒の高校進学の実状は？

兵庫県内で暮らす外国人の中学生の高校進学率は韓国朝鮮籍を除くと、日本人に比べて著しく低い状況にあります。高校に進学できない外国人生徒は、言語上・学習上のハンディを負わされていますが、そればかりでなく経済的に困難な状況にあることが、進学をあきらめさせている場合が少なくありません。彼ら彼女たちは、家計を助けるために進学せずに働くことを選ばざるを得なかったり、進学したものの学費が払えず中途退学せざるを得ないことによって、人権としての「教育を受ける権利」を奪われ、さらに、職業選択の幅も著しく狭められて、不安定な職業に就くことを余儀なくされるのです。

「定住外国人子ども奨学金」の目的

定住外国人子ども奨学金実行委員会では、高校進学を希望する、経済的に困難な子どもが多く存在している現実を目の前にし、彼ら彼女たちの高校進学・就学を支援し、将来の夢を「あたりまえに」描くためには、一般生徒を対象とした既存の奨学金制度以外に、外国にルーツをもつ子どもたちを対象とした独自の奨学金制度が必要であると考え、2007年に当該奨学金事業を始めました。



「あたりまえに」将来の夢を描けるように！

当奨学金の資金は、寄付や募金によるものが主であり、皆さまからの安定的・継続的なご協力がかかせません。このチャリティコンポジウムの収益を全て奨学金の原資とすることによって財政基盤を安定させ、高校進学を希望する経済的に困難な外国にルーツをもつ子どもたちを将来にわたって積極的に支援していきたいと考えています。私たちの活動にひとりでも多くの方がご賛同いただき、一緒に活動または本事業を応援してくださることを心よりお願い申し上げます。

